

# 子宮移植 慶大が計画承認

## 審査委 臨床研究 実施を検討

日本医学会の検討委員

会が21年に公表した報告書では、臨床研究として、子宮移植の実施を容認した。ただ、研究が適切に行われるための条件として、臨床研究の実施機関での審査に加えて、日本移植学会と日本産科

婦人科学会の合同検討委員会での二重の審査も求めている。  
今回承認された計画も、実施に向けては、2学会の合同委員会での審査が求められることにな

（野口慶太）

子宮がない女性の出産を可能にするための「子宮移植」について、慶応大病院は27日、同大の研究チームが申請していた臨床研究の計画が、学内の審査委員会に了承されたと発表した。今後、病院として実施するかを検討する。

計画は2022年11月に申請された。チームによると、対象は、生まれつき子宮がないロキタンスキー症候群など「子宮

性不妊症」の20～30代の患者3人。子宮は、実の母親など患者と親族関係にあり、健康な女性から提供してもらう。  
子宮移植は、移植を受ける患者も子宮の提供者も、長時間の手術が必要で負担が大きい。子宮がない患者にとっては、自ら妊娠・出産するための唯一の方法だが、生命維持のための臓器移植ではないため、慎重な姿勢が取られていた。